

農作物の生育状況と今後の見通し・農作業安全について(7月)

鳥取県農業気象協議会
(鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ)
令和8年7月15日 現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	水稻	・全般的に生育は順調。 ・茎数が確保されているが、梅雨入り後の天候不順によって中干しが不十分なほ場が多い。 ・田植えの早かった4月中下旬田植えの稲生品種では出穂期を迎え、コンヒカリが穂ばらみとなっており、5月下旬植えのコンセチカや6月中旬植えの皇空舞が幼穂形成期となっている。 ・現時点で目立った病害虫の発生は見られないが、ジャンボタニシの発生量が多く、浅水管理が困難な中部の一部ほ場では被害が多い傾向である。	・適正な穂肥施用を行い、適期防除を行う。 ・中干しが不十分なほ場では、間断かんがいの乾田期間を長くし、田面を徐々に硬くしていく。 ・高温、少雨によって田面が急激に乾燥すると、ひび割れが大きくなって漏水を助長する場合があるため、ほ場をよく観察して中干し終了と再入水の時期を判断する。 ・用水が不足する地域では、水稻生育段階ごとに用水の必要量が異なるため土壌の乾き具合を見ながら節水栽培を行う。
	大豆	・6月上旬～中旬までに播種したほ場は全般的に生育順調。 ・6月下旬以降に播種予定であったほ場は、降雨によって作業が遅れている。 ・一部では、梅雨入り後のまとまった降雨による湿害で出芽不良や生育不良の発生が見られている。ほ場排水が徹底されたほ場では、中耕・培土が進みつつある。	・排水対策に努め、湿害回避を図る。 ・雑草の多いほ場では、ほ場乾燥後に中耕培土や除草剤散布を行う。除草剤散布に当たっては、使用方法、使用時期を確認し、適正使用を行う。
果樹	ナシ	・大袋かけ作業が終了し、夏枝管理の作業中である。 ・7月13日の果実生育調査結果は次のとおり。 「二十世紀」：3園の横径平均が60.0mmであり、前年比112% (8日早い)・平年比106% (4日早い) 「新甘泉」：3園の横径平均が66.3mmであり、前年比109% (5日早い)・平年比104% (2日早い) ・6月1日に病害虫発生予察注意報「果樹カメムシ類」が発表されたが、7月上旬の病害虫防除所の予察灯による誘殺数調査では平年並、フェロモントラップ調査では平年並の園、前年に比べて多い園がある。果樹園内では見かけられていない。 ・梅雨明け以降、気温が高くて雨が降らないことからハダニの好条件であり、発生が増えている。	・着果枝を確保するため、夏枝管理を行う。 ・高温乾燥が続く場合、かん水は次のとおり行う。 赤土園では連続晴天7日、黒ボク園では連続晴天10日を目安にかん水を行う。 施設のある園では積極的にかん水する。 特に、幼木や若木にはこまめにかん水を行い、土壌乾燥防止のため、株元を山草や稲わらなどでマルチする。 ・カメムシが増加する恐れがあり、園内への飛来状況を確認し、防除を徹底する。 ・ハダニ類の発生状況を確認し、密度が高くないうちに防除する。 ・8月に入るとハウス二十世紀の収穫・選果販売が始まる(昨年は8月2日販売開始)。
	カキ	・大規模農家等で摘果作業が継続して行われている。 ・7月13日の果実生育調査結果は次のとおり。 「輝太郎」：3園の長径平均が47.4mmであり、前年比98% (1日遅い)・平年比101% (平年並) 「西条」：3園の長径平均が34.5mmであり、前年比103% (2日早い)・平年比101% (1日早い) 「富有」：3園の長径平均が47.8mmであり、前年比99% (1日遅い)・平年比103% (1日早い) ・6月1日に病害虫発生予察注意報「果樹カメムシ類」が発表されたが、7月上旬の病害虫防除所の予察灯による誘殺数調査では平年並、フェロモントラップ調査では平年並の園、前年に比べて多い園がある。果樹園内では見かけられていない。	・仕上げ摘果が終わっていない園では早めに終わらせて大玉生産を目指す。 ・日焼け防止のため、横から下向きの葉に隠れる果実を残す。 ・高温乾燥が続く場合、かん水は次のとおり行う。 赤土園では連続晴天7日、黒ボク園では連続晴天10日を目安にかん水を行う。 施設のある園では積極的にかん水する。 特に、幼木や若木にはこまめにかん水を行い、土壌乾燥防止のため、株元を山草や稲わらなどでマルチする。 ・車刈りを行って園内の通気を良くし、病気の発生や果実の汚れを防ぐ。
	ブドウ	・「デラウエア」の収穫・販売中である。 ・黒系の「巨峰」「ピオーネ」が着色期であり、梅雨明けまでは夜温が下がったこと等もあり、例年よりも着色が進んだ。 ・7月11日の果実生育調査結果は次のとおり。 「ピオーネ」：横径が27.4mmであり、前年比103%、平年比95% 「シャインマスカット」：横径が22.8mmであり、前年比102%、平年比92%	・着色促進、日焼け・縮果症の発生を抑えるため、ハウス内の温度を下げるよう努める。 ・晴天が続けば適度なかん水を行って乾燥を防止する。過剰な灌水は裂果の発生につながるので注意する。 ・新加温ハウス巨峰・ピオーネ検査標準査定会が7月24日(金)に開催予定である(昨年は7月25日開催)。
	すいか	【ハウス】 ・半促成栽培は終了し、抑制栽培の定植が7/6から始まっている。 【トンネル】 ・出荷は終盤となり各選果場では7/20～24頃に最終選果となる見込み。階級は大玉傾向で3L中心4L寄り。 ・強日射と高温により果実の焼けやうるみ果、選果場で異常果、市場で腐れによる事故品、の発生がみられる。	・高温によるうるみ果の発生が懸念されるため、遮光資材が活用されている。 ・アブラムシ、ダニ等の防除を徹底する。
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 ・育苗中で順次定植が進んでいる。定植後の生育は、現時点で順調。 ・育苗では、一部で苗立ち不良、過湿による立枯れが発生している。 【夏ねぎ】 ・収穫中。平年より気温が低く、適度に降雨があったことから、昨年より生育は良好で、おむね順調に出荷されている。 ・黒斑病、白絹病、さび病、ハモグリバエ、ネギアザミウマの発生がみられる。 【秋冬ねぎ】 ・梅雨時期の降雨の影響で生育は概ね順調。 ・黒斑病、さび病、白絹病、ハモグリバエ、ネギアザミウマの発生がみられる。	・春ねぎは7月下旬から3月どり、8月中旬から9月上旬に4月どりが定植される予定。 ・高温乾燥が予想されるため、土寄せ作業は慎重に行うよう呼びかける。 ・高温と降雨により白絹病、軟腐病の発生が増加するため、病害防除を徹底する。 ・短時間豪雨や台風時期に備え、ほ場に滞水しないように明渠等の排水対策を行っておく。
	ブロッコリー	【初夏どり】 ・6月下旬は気温が低く、花蕾不形成や軟腐病等の腐敗症状の発生はなく、7月上旬で出荷を終了した。 【秋冬どり】 ・7月第2週から播種作業が始まった。	【秋冬どり】 ・気温が高く、晴天が続く予報のため育苗中乾きやすいため、発芽中の苗箱の乾燥への注意喚起とかん水の頻度を増やすよう呼びかける。
	トマト(夏秋)	・生育は順調で昨年より6日早い6/29から選果場が稼働している。 ・出荷量は曇天が続いた影響で7月上旬は前年比95.5%となっている。 ・病害虫は7月上旬に一部でトマトキバガやコウモリガが確認されたが、大きな被害にはなっていない	・今後も気温は高く、降水量の少ない日続く予想されるため、少量多かん水の徹底をはかる。 ・適正な草勢確保のための管理(かん水、追肥、摘果、葉面散布、摘果など)を行う。 ・ゲリラ豪雨に備え、施設周りの排水対策を徹底する。
	ミニトマト	【半促成栽培】 生育期後半となり株上段の収穫になっている。 ・梅雨明け後、高温・強日射の影響で日焼け果が発生し始めている。 ・コナジラミ、トマトキバガの発生がみられる。一部ですかび病が発生している。 【抑制栽培】 定植は平年並みの5月下旬から始まり、6月下旬にピークとなった。 ・生育は梅雨の曇雨天の影響でめがね症状の発生がやや多い。 ・一部のほ場でアザミウマの発生がみられるが、その他目立った病害虫の発生はない。	【半促成栽培】 ・病害虫の防除の徹底。 【抑制栽培】 ・定期的に下葉かきを実施し、三段目開花まで光合成量を制限する。 ・トマトサビダニ等の予防防除を徹底する。
	ながいも	・ねばりっこ、長芋とも生育は概ね平年並みの生育。ただし、圃場ごとに繁茂状況にばらつきがみられる。 炭疽病の発生はほとんど見られない。	・干ばつ場合はスプリンクラー散水を積極的に活用し過乾燥をできるだけ防ぐ。芋の肥大期であるため、こまめな追肥を心がける。 乾燥が続くとダニ等の害虫発生、降雨があれば炭疽病の発生・蔓延が心配されるため、病害虫防除を徹底する。
	アスパラガス	・生育は概ね平年並みである。 ・ハウス、雨よけ、露地ともに立茎が完了し、夏芽の収量が増加しつつある。 ・病害虫の発生は一部でアザミウマの発生がみられる。	・ハウスの高温対策として、遮光資材の設置や通風を良くするよう助言する。 ・褐斑病やアザミウマの発生が多くなる時期となるため、定期的な防除を呼びかける。
	シンデッポウユリ	【露地・盆・彼岸作型】 ＜東部地区＞ ・おおむね順調。盆出荷作型は草丈80cm以上となり、着蕾してきている。彼岸出荷は抽苔してきている。葉色が落ちてきているほ場では、葉面散布や追肥を指導。目立った病害虫はなし。 ＜中部地区＞ ・生育は順調であるが、多少早まっており、盆作型の一部では開花が早まる可能性がある。一部圃場で葉枯れ病が発生している。 【ハウス抑制作型】 ・7/1から定植が始まっており、定植は概ね完了。定植前に1週間程度の苗冷蔵を行った。	＜東部地区＞ ・盆出荷作型の生育が早く収穫が早まる可能性があるため、収穫後冷蔵貯蔵方法について生産者へ情報提供予定。 ＜中部地区＞ ・引き続き、葉枯れ病の防除を徹底する。
	ストック	＜中部地区＞ ・7/25からの播種に向けてほ場準備中。 ＜西部地区(中山間)＞ ・7/23頃から播種予定。昨年より3日遅い。	＜共通＞ ・播種前に予め寒冷紗を2重掛けとし、ハウス内が高温とならないようにする。
花き	りんどう	・極早生系統の出荷が終了し、1日当たりの出荷量が少なくなっている。 ・一部のほ場で褐斑病の発生が見られるが、全体的には病害虫は少ない状況。	・今後、褐斑病やオオタバコガなどの発生が増えてくるため、引き続き定期的な防除を呼びかける。 ・高温による萎れ、テッパバーンの発生などが懸念されるため、適切な灌水やカルシウム剤の散布が必要となる。
	アスター	・6/19から播種が開始(昨年より2日早い)。7月下旬～8月上旬までに播種予定。播種の進捗状況は50～60%程度となっている。 ・6月下旬播種の発芽は良好だが、梅雨明け前後に播種した圃場では発芽があまりよくない。	・7月中旬以降は平年より暑くなることが予想されるためハウス内をできるだけ涼しくするために寒冷紗を2重または3重掛けし、乾燥しないようにこまめな灌水を心がける。 ・播種前には十分に灌水を行い、播種時に圃場が乾燥しすぎないようにする。

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
飼料	イタリアンライグラス	・一部地域で梅雨前に収穫出来なかったほ場では梅雨明けとともに2番草の収穫中だが、おおむね2番草の収穫は終了した。	・イタリアンライグラスの収穫が終了したほ場ではミレットなどの夏牧草の播種が行われている。
	飼料用トウモロコシ	・4月下旬～5月上旬播種のほ場では出穂を確認。生育はおおむね順調である。	・7月下旬から8月にかけて収穫が実施される予定。

【農作業安全について】
7月13日には鳥取県熱中症警戒アラート第1号が発表され、今後気温が著しく高く熱中症になりやすい危険な暑さが予想されています。
農作業を行う前には必ず暑さ指数(WBGT値)を確認して熱中症予防に心掛けてください。
【暑さ指数(WBGT)の目安】
31以上:危険な暑さ
28以上31未満:嚴重警戒
25以上28未満:警戒
25未満:注意
○環境省熱中症予防情報サイトへのリンク(鳥取県)
https://www.wbgt-env.go.jp/wbgt_data.php?region=08&prefecture=69&tab=td